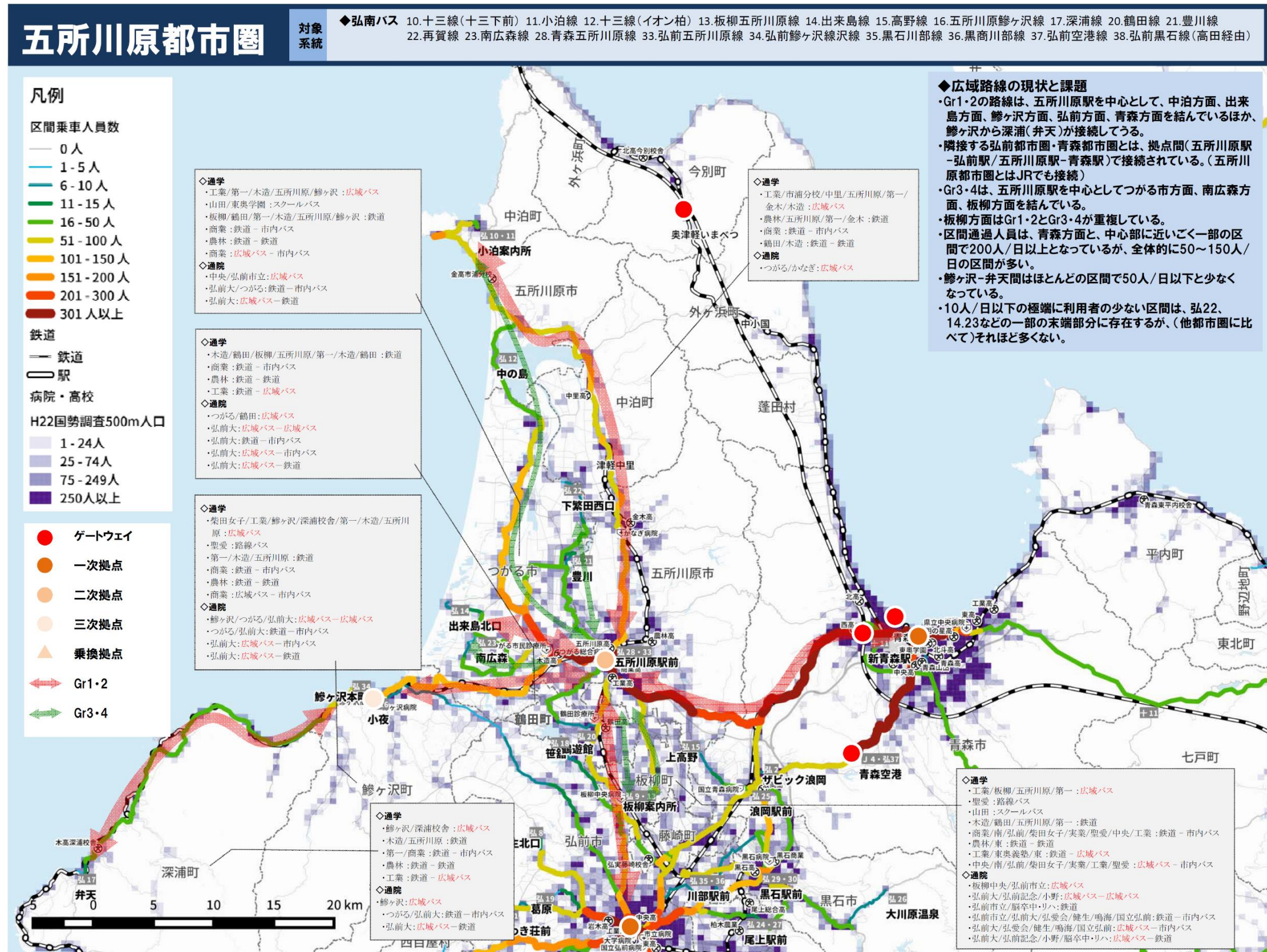


④五所川原都市圏（西北圏域）

◆現状や課題

- 1) 交通ネットワーク：五所川原駅を圏域の拠点（二次拠点）として、広域バス路線が集まっており、幹線性の高い路線がある一方で需要に限られる路線もある。津軽鉄道やJ R 五能線と広域バス路線の並走区間があるがどちらも一定の利用がある。3月の北海道新幹線開業で新たに北津軽のゲートウェイとなる奥津軽いまべつ駅ができる。
- 2) 利用のしやすさ：圏域から広域路線バスを利用したつがる総合病院など集積する都市機能へのアクセスが多い。また、圏域ではバス間乗継がある。
- 3) 維持・持続性：広い平野部に集落が点在し、広域バス路線の統廃合が難しい。

現況図



◇今後の方向

- 1) 交通ネットワーク：五所川原駅を圏域の拠点（二次拠点）として、幹線性・広域性の高い鱒ヶ沢方面、小泊方面、青森方面、弘前方面への広域バス路線を軸として圏域の広域路線の維持に努める。津軽鉄道やJR五能線と広域バス路線の並走区間があるため、鉄道・バスそれぞれの比較優位性を把握し、機能・役割分担を明確にしていく。また、北津軽のゲートウェイとなる奥津軽いまべつ駅と圏域とを結ぶ路線を開設し、圏域の拠点からのアクセス性を確保する。
- 2) 利用のしやすさ：鉄道とバス間乗継やバス間乗継に対し、乗継利便性の向上に取り組む。
- 3) 維持・持続性：利用者が限られるが地形的要因から統廃合が難しい路線については、一層の利用促進や効率化の検討をおこなっていく。

拠点および基幹ネットワーク図

